日本児童英語教育学会

(The Japan Association for the Study of Teaching English to Children)

中国四国支部 Newsletter

No.22（2010 年秋号）

第 29 回 中国四国支部研究大会 レポート

2010 年 7 月 4 日（日），第 29 回中国四国支部研究大会が「小学校外国語活動とその評価」というテーマのもとに，ひろしま国際センターで開催され，講演，ワークショップ，および実践報告が行われた。以下，当日朝から夕刻まで開催された研究大会の模様を，支部役員による「参加レポート」の形で掲載する。

◇　◇　◇

講演
「望ましい評価と活動例　―新学習指導要領に基づいて―」

高橋美由紀
（愛知教育大学）

高橋美由紀先生には 5 月に発表されたばかりの「評価の観点およびその趣旨」の内容に基づき，言語や文化への「気づき」をいかに評価するか，「慣れ親しんでいる」という観点においていかに評価するか，どのような評価場面となる活動を組むか，など外国語活動の現場で大きな悩みとなっている「評価」についてのお話をいただいた。

講演の中では，外国語活動では長期的な定着や習得を目指すのではなく，子どもたちの「言おうとしている姿」や，単元の中で活用できていることを観察により評価していくこと等が示された。

また，言語への気づきの中でも「音」への気づきを大切にすることの重要性が語られた。その説明の際にはティッシュペーパーを口元にかざしながら発音することで，強い呼気が出る音があることに気付かせるなど，実践のための具体例もあわせて示していただき，大変説得力があるお話をいただいた。例えば『英語ノート①』Lesson4 での一例として，Orange の発音ではティッシュペーパーは震えないが，Pear では震えるということを実際に体験することを通して，単なる発音練習の繰り返しや CD の視聴では気付けない「言語への気づき」をもたらす方法があることが紹介された。

また，その他の「言語や文化への気づき」の例として，日本語と中国語の似ている点と異なる点を漢字と英語を使って体験する事例が紹介された。例えば「手紙」は日本では英語でいうところの letter を意味するが，中国では toilet paper を意味し，「汽車」は日本では train を意味するが，中国では car を意味するなど，児童にとって「へぇ」という驚きや気づきがある学びの場面の作り方を示していただいた。

英語だけに目を向けるのではなく，「外国語活動」として様々な活動が可能であること，単に英語ノートに示された活動を順番通りに追うのではなく，児童の気づきを促すような活動をどのように設定していくかが重要であること，その上で児童の様子をしっかり観察し評価を行っていくことが大切であることが 90 分に渡って語られ，参加者も児童になった気持ちで「体験」することを通して，これらの重要性を実感できる講演であった。

松宮奈賀子（広島大学）

◇　◇　◇

ワークショップ
「評価に使える楽しいワークシート簡単作成法」

福智佳代子
（神戸海星女子学院大学）

2011 年義務教育として年間 35 時間の小学校英語活動が開始される。必然的に，学級担任が，自立して英語活動授業を運営していくことが期待されている。

福地先生は，学級担任が自分流の授業スタイルを創り，授業運営を円滑に行うために，児童が楽しめる英語活動案の作成法と実際の活動を紹介された。また，小学校英語活動で育まれた素地が中学校英語教育につながっていく過程を実際の活動記録の形で残し，児童が自分の発達過程を辿ることが可能なポートフォリオ作成のために，楽しいワークシートの簡単作成法について議論なさった。

限られた時間内で，授業を円滑に行うためには授業案には一定の流れがあり，児童の活動のプロセスが「見える」ようにしなければならない。「児童の活動プロセスが分かる活動案テンプレート」を作成し 1 単元の流れを決め授業の活動型をパターン化し，ワークシートを作成していくのである。何より児童が，授業が分かり，楽しめる英語活動にするために，①あいさつ，②ウォームアップ（復習およびユニットで扱われる語彙導入），③スキット（ティームティーチングで目標表現触れ推測理解する活動），④アクティビティ（全体での応答から個人対個人の応答まで，ゲームなどで目標表現の応答になれる活動），⑤自己表現活動（Show & Tell 等のような自分から情報を伝える活動）の流れを提案された。

また紹介していただいたワークシートには，「ふりかえりカード」が添付されていた。「ふりかえりカード」は児童の達成度を測り児童自身の自己評価力を考察する資料である。「ふりかえりカード」には，①英語活動に対する情意面に関する項目，②国際理解に関する項目，③コミュニケーションを測ろうとする態度・意欲に関する項目，④各活動内容に関する項目がある。児童は「ふりかえりカード」に，自分ができた活動を自己評価できる仕組みになっている。

最後に印象に残ったアクティビティを紹介しよう。各一枚国旗のカードを配布され，“Where are you from?” “I’m from ….” と仲間探しをするゲームだ。同じ国旗の児童は同じ国旗の者同士集まり，違う国旗はだと，“See you!” と言って別れる。最終的に仲間の人数＝人口が国によって違うことに児童は自然にアクティビティを通して気がつくのである。児童に「気づき」を与える・促すアクティビティを私自身しているだろうか？と自問してみた。私自身授業で「まだまだ出来ていないな・・・」と気付いた大変有意義なワークショップであった。

西尾亜紀子（Bear’s English House）

◇　◇　◇

実践報告
『ひろしま型カリキュラム』小学校英語科について

高田玲子
（広島市教育委員会）

高田先生には，広島市が「ひろしま型義務教育創造特区」の認定を受けて実施している『ひろしま型カリキュラム』について紹介していただいた。

『ひろしま型カリキュラム』の 3 本の柱は，①小学校と中学校の連携・接続の改善，②言語・数理運用科の創設，③英語科の創設である。

広島市では，国際平和文化都市広島の 21 世紀の担い手である子どもたちにとって，英語はコミュニケーションの重要な手段の一つとなると考えられることから，広島市の英語の学習に係る現状や課題を克服し，より一層の推進と充実を図る必要があるとの考えから小学校英語科を創設した。

広島市立小学校英語科の目標は「英語による活動を通して，言語や文化に対する興味・関心を高め，英語を聞いたり話したりする力の基礎を養うとともに，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」ことである。

小学校英語科がねらっているものは，①

ことばや文化への関心を高める，②英語を聞いたり話したりすることに慣れ親しませる，③積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる，となっている。

英単語カードと副読本を使って，500 個の英単語に触れ，言葉の成り立ちに気づかせ，言葉のつながりや共通点に気づいていく。500 語は子どもの興味関心がある身の回りのものの中から選ばれ, 名詞, 形容詞, 動詞が含まれている。

週 3 回 15 分間ずつの帯時間では，学級担任が授業をする。英単語カードを見ながら，CD の音を聞き，次にまねて発音練習，慣れてきたら，かるたやゲームを通して，さらに聞いたり発音したりする。

週 1 回の 45 分授業は，学級担任または，英語科担当教師と英語指導アシスタントとのティームティーチングで行われる。帯時間で学習した英単語を用いてゲーム，コミュニケーション，歌などの活動を行い，最後にわかったことや気づきをふり返りカードに記入し，発表し合って共有する。学習したことばを使う楽しさ，ことばを作って表現する喜びを味わうことで，英語科の目標に到達することができる。

学級担任は子どもの実態や他教科等との関連に基づいた授業づくりをし，子どもにとっての身近な英語学習モデルになり，児童の実態を考慮した支援，評価をする。

評価は，ことばや文化に関すること，聞くこと･話すこと，それぞれについて関心意欲態度を児童の発言，行動観察，ふり返りカードの記述等から総合的になされる。

指導者の養成についてであるが，英語科教員は，19 年度から 21 年度にかけて，発音クリニック，授業作りについての講義，TT 演習等 16 日間の研修を受けている。

最後に，TT で行われている授業を紹介したテレビのニュース映像を見せていただいた。子どもたちの笑顔を見て，小学校での英語科の楽しい経験が，英語好き，また将来の英語習得につながるのではないかと期待している。

恵良上枝　(公文式教室)

◇　◇　◇

中国四国支部　活動報告

7 月 4 日（日）に開催された第 29 回支部研究大会において支部総会が開催された。次第は以下のとおりである。

○議題
1. 2009 年度活動報告
2. 2009 年度会計報告
3. 2010 年度事業計画
4. 2010 年度予算案

○諸連絡
1. 学会案内
2. その他

2009 年度の活動報告がなされた後，支部事務局長より 2009 年度の会計報告がなされた。会計監査担当者より監査報告を受け，出席していた会員より承認された。

中国四国支部では支部研究大会の他に，児童英語指導法研究部会，およびワークショップを開催している。

今年度の児童英語指導法研究部会の活動日程は以下のとおりである。なお，今年度ワークショップは広島と徳島ですでに開催済みである。

1) 児童英語指導法研究部会

第 1 回　2010年7月11日（日）
テーマ：「小学校英語および児童英語指導法について」（終了）
講師：國本和恵（子供英語）
第 2 回　2010 年 8 月 27 日（金）
テーマ:「小学校英語および児童英語指導法について」（終了）
講師：國本和恵（子供英語）
第 3 回　2010 年 9 月 5 日（日）
テーマ：「小学校英語および児童英語指導法について」（終了）
講師：國本和恵（子供英語）

次回の研究部会を以下の予定で開催いたします。参加費は無料です。非会員の方の参加を歓迎します。詳細については本支部ウェブサイト(http://www.urban.ne.jp/home/bisa/jastec/index.html) をご覧ください。

第４回　2010 年 12 月 5 日（日）
テーマ：「クラスルームイングリッシュ」

参加費：無料
場所：広島県安芸郡府中町八幡
　　英語教室　子供英語
参加費：無料
参加申し込み:國本 (bisa@urban.ne.jp) までメールでお申し込みください。
最寄りバス停：広電バス府中線，永田行き/府中ニュータウン行き　浜田２丁目バス停（会場までは徒歩１分）

※中国四国支部児童英語指導法研究部会は，小学校英語と児童英語の指導法について，テーマに沿って指導法を参加者が持ち寄り，それを共有することを目的に活動しています。

2) ワークショップ
　ワークショップは今年度は徳島県と広島県で開催した。その概要は以下のとおりである。

第１回　2010 年 8 月 18 日（水）（終了）
プログラム:「子どもも先生も楽しめる英語活動」
会場：松茂町総合会館
講師：小泉清裕（昭和女子大学附属昭和小学校・校長）

第２回　2010 年 10 月 24 日（日）（終了）
会場：広島市留学生会館
1. 「歌の指導から Show & Tell の発表へ－私の好きな色を歌に乗せてお友達に発信しよう！－」
講師：西尾亜紀子 (Bear's English House)
2. 「英語ノート 2 Lesson 3 When is your birthday? －仲間作りを意識した外国語活動－」
講師：山崎朋子（安芸郡府中町立南小学校英語非常勤講師）
3. 「Reading to Children－体で覚えた英語を読む力に－」
講師：鶴田マリ(広島 YMCA 外語学院名誉学院長)

◇　◇　◇

第 30 回支部研究大会のご案内

大会テーマ
「さまざまな立場から語る小学校外国語活動のこれから」

会場
安田女子大学　６号館２階 6202 教室
（広島市安佐南区安東 6-13-1）

10:00　受付開始

午前の部　　司会　國本和恵
（子供英語）
10:20－10:30　開会の挨拶
國本和恵
（JASTEC 中国四国支部長　子供英語）
10:30－11:00　ワークショップ
「Singing Songs is Fun」
鶴田マリ
（広島 YMCA 外語学院名誉学院長）
11:00－12:30　講演
「英語で自然に話される内容の大体がわかる児童を育てる外国語活動－意味のあるやりとりの連続を通して－」
上原明子
（福岡県太宰府市立太宰府西小学校）
12:30-13:30　昼休み

午後の部　　司会　平本哲嗣
（安田女子大学）
13:30－14:30　実践報告およびミニワークショップ
「コミュニケーションでむすぶ英語教育」
樫葉みつ子
（広島大学）
14:30－14:40　休憩

14:40－15:55　ワークショップ
「小学校外国語活動教員研修を再現する：ワークショップを通して伝えたいこと」
兼重昇（鳴門教育大学）
15:55－16:00　休憩
16:00－16:20　全体討議
16:20－16:30　閉会の挨拶
五十嵐二郎（広島大学名誉教授）

※　研究大会参加費：　一般 1,000 円，学生 500 円（JASTEC 会員は無料，賛助会員は３名まで無料）
※　研究大会の参加予約は必要ありません。当日，会場の受付までお越しください。
※　中国四国支部では 2011 年 5 月に広島市で開催を予定しております次年度第 1 回研究大会の発表者を募集しております。詳しくは以下の事務局にお問い合わせください。

JASTEC 中国四国支部事務局
739-8524　東広島市鏡山 1-1-1
広島大学大学院教育学研究科　松宮奈賀子研究室内
TEL & FAX: 082-424-4536 (直通)
E-mail: nagako@ab.auone-net.jp
Home Page: http://www.urban.ne.jp/home/bisa/jastec/index.html

---

編集後記

最近国家間の対立を意識する事件が多発しています。外交問題，特に領土問題は譲ることによる国家的損失が大きいため，どうしても激しい争いとなる傾向があります。ネット上での書き込みをのぞいてみても，過激な言葉が飛び交い，ひどいものになると戦争をあおるような発言までなされています。

他者と付き合う限り利害の対立が生じるのは当然のことで，お互いに相手の主張を理不尽だと批判するのは万国共通の行動です。これは私見ですが，外交においては一方的な「勝利」をやみくもに得ようというのは非現実的であり，したたかさに欠ける幼児的なふるまいといえるのではないかと考えています（気分を害された方，今しばらくご勘弁を）。

自分とは意見を異にする者に対してしばしば過激な振る舞いを取る人の共通点として，相手一人一人の「顔」を見ようとせず，個別性，人格性のない「のっぺらぼうな存在」としてしか捉えていないことが挙げられます。お互いに自らの偏狭さを棚に上げておいて，批判合戦を繰り返すのですから（ま，人間とはそういうものですが），一旦問題が生じるとその解決を図るのはなかなか大変なことです。

英語に触れる活動は，常に他者と向き合うという経験を伴います。言葉をもってしても理解し合えないもどかしさを，言葉の使用をもって感じる。言葉のもつ力強さと無力さを学ぶというこのパラドクシカルな経験を英語は提供してくれるわけです。

我々は外国語に触れることによって，本来理解しあえない存在である他者に対して謙虚な気持ちで向き合うことができるようになります。隣人を一人一人異なる人格としてみること，そして互いの不完全性を認め合いつつ，したたかに共存すること，これが今の時代に必要とされているものではないでしょうか。「劇的な問題の解決」に誘惑されない知的たくましさを持ち合わせることが大事だと思います。児童英語教育に携わる我々にとっても，小さな外交官を育てる大きな責務があるわけですね。

話は変わりますが，この度本支部に新しい役員が加わりました。広島国際大学の三宅美鈴先生が研究員として参加されることとなりました。陽気でほがらか，そして児童英語教育について深い見識をお持ちの三宅先生と共に活動をより充実させていきたいと考えております。

最後におめでたいお話を。本支部で長年顧問をお務めいただいている五十嵐二郎先生がこの度瑞宝中綬章を受章なさいました。先生の温厚なお人柄と絶えることのない好奇心，研究欲には支部役員一同常に感銘を受けております。これからも先生のご指導をいただきながら，中国四国支部は活動を進めてまいります。先生，本当におめでとうございます。

(H)

JASTEC 中国四国支部 Newsletter No.22
2010 年 11 月 10 日発行 (編集　平本哲嗣)

（付記）

JASTEC 中国四国支部役員

（2010 年 11 月現在）

＊ [　]内は全国本部役員名

顧問　五十嵐二郎
（広島大学名誉教授）

顧問　鶴田マリ
（広島 YMCA 外語学院名誉学院長）

支部長[理事]・広島ワークショップ担当
國本和恵
（子供英語）

支部事務局長[運営委員]　松宮奈賀子
（広島大学）

幹事[理事]・鳥取ワークショップ担当
川口康子
（鳥取短期大学）

幹事[理事]　築道和明
（広島大学）

幹事[理事]　金森強
（松山大学）

幹事[運営委員]　松岡博信
（安田女子大学）

幹事[運営委員] ・ニューズレター担当
平本哲嗣
（安田女子大学）

幹事[運営委員]　西谷恵美子
（東広島市立板城西小学校）

幹事[運営委員]・徳島ワークショップ担当
吉山京子
（松茂町立松茂小学校）

研究員・会計監査　中根千春
（Fun Can 英語教室）

研究員・会計担当　恵良上枝
（公文式教室）

研究員　鉄森令子
（広島県立高陽高校非常勤講師）

研究員　マーク・フェネリー
（四国大学）

研究員　大谷みどり
（島根大学）

研究員　名合智子
（中国短期大学）

研究員・会計監査　西尾亜紀子
（Bear’s English House）

研究員　三宅美鈴
（広島国際大学）

計 19 名